

設計基本条件

01 外来部門

1) 基本方針

- 地域の医療機関との役割分担を踏まえ、良質で安全な医療が提供できるように、医師、看護師、コメディカルスタッフが一体となった診療体制を整備する。
- バリアフリーを図るとともに、外来患者が利用しやすい施設を基本とし、患者アメニティに配慮した快適な環境を整備する。
- 診察室、検査部門、放射線部門等の配置は患者動線を工夫し、患者の病院内での移動による負担軽減を図る。
- 待ち時間の短縮、わかりやすい案内表示を行うことや、患者の受診科選択や診療案内等の相談に応じる事で、外来患者の心理的負担の軽減を目指す。

2) 運営方針

- プライバシーを確保した診察室、ゆったりできる待合スペース、わかりやすい院内表示等、患者が快適に受診できる環境を提供する。
- 救急患者に迅速かつ効率的に対応するため、スタッフの動線を工夫するとともに、外来診察室、処置室等を有効に活用できるように配置する。
- 外来化学療法機能を充実させるために、外来化学療法室を整備する。
- 原則として、検体採取は中央採血・採尿室で、点滴は中央処置室で行う。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
外来診察 エリア	内科診察室	3 室	・医療情報端末、手洗設備、呼び込み設備、診察机/診察台	
	内科処置室	1 室	・処置台、医療ガス	
	外科診察室	1 室	・医療情報端末、手洗設備、呼び込み設備、診察机/診察台	
	外科処置室	1 室	・処置台、医療ガス、個別換気	・処置的手術が可能な処置室(異物除去、外傷の縫合等)
	整形外科診察室	6 室	・医療情報端末、手洗設備、呼び込み設備、診察机/診察台	・診察室を中待合いとし、医師が移動して診察
	整形外科処置室	1 室	・処置台、医療ガス	
	整形外科ギブス室	1 室		
	整形外科装具室	1 室		
	診察室	3 室	・医療情報端末、手洗設備、呼び込み設備、診察机/診察台	・出張診療(皮膚、泌尿器等)、面談室、患者指導室を兼用
	処置室	2 室	・処置台、医療ガス	
	器材庫	—		・複数室設置
待合 エリア	待合い	—	・医療ガス (災害時対応)	・高齢者がスムーズに診察室へ入室できる配慮 ・ストレッチャーで来院の患者が静かに待てるエリアを整備 ・災害時は処置エリアとして活用 ・整形外科は中待合不要

中 央 処 置・採血 エリア	中央処置室	1 室	・医療情報端末、医療ガス、ベッド(10 台)	・回復室を兼用
	採血エリア	—		・患者動線に優れる配置、十分なスペース
	採尿トイレ	2 室		・男女別、車イス対応 ・検体検査部門とパススルー
	器材庫	—		
化学療法 エリア	化学療法室	1 室	・医療情報端末、医療ガス、リクライ ニングシート(ベッド)2 台、TV	・薬剤部門でミキシングを行うため、薬剤 部門との搬送動線を考慮 ・中央処置室に隣接 ・リクライニングシート増設スペース
	診察室(兼面談室)	1 室	・医療情報端末、診察机	
	トイレ	1 室		・車イス対応
救急 エリア	診察室	1 室	・医療情報端末、手洗設備、診察机/ 診察台	・外来部門の近隣に整備し、医師・看護師 の動線を確保 ・放射線部門近隣に整備
	処置室	1 室	・処置台、医療ガス	
	救急車専用入口	—		・外来利用者動線との分離
内 視 鏡 エリア	内視鏡室	1 室	・医療情報端末、手洗設備、医療ガス、 検査台(1 台)	・放射線科近隣(X 線 TV 室)に整備 ・手術室との動線の確保 (内視鏡の搬送)
	エコー室	1 室	・医療情報端末、検査台(1 台)	・調光可能な設備
	診察室	1 室	・医療情報端末、診察机	
	前処置エリア	—	・処置台	
	洗浄室	1 室	・給排水装置	
	患者更衣室	1 室		
	トイレ	1 室		・車イス対応
感染 エリア	診察室	1 室	・医療情報端末、手洗設備	・内科診察室との動線を考慮
	採痰エリア	—	・個別換気	・ブース形式 (ストレッチャー対応)
	トイレ	1 室		
	待合い	—		
	専用入口	—		・発熱外来専用入口
その他	外来スタッフルーム	1 室	・洗面台	
	外来職員用トイレ	2 室		・男女別
	車椅子、ストレッチ ャー、入院用カート 保管スペース	—		
	器材庫	—		・複数ヶ所整備
	霊安室	1 室		・遺体が患者待合を通らないルートで奥 まった場所に設置
	処置エリア	—		・死後の処置を行うエリア
・外来は1フロアにまとめて整備し、他部門との連携や、診療科ごとの優先配置エリアを考慮する。 ・スタッフ動線を外来患者から隠すように工夫する。				

02 病棟部門

1) 基本方針

- 医療事故や院内感染の防止等、安全かつ安心な医療を提供できるように、医師、看護師、コメディカルスタッフが一体となったチーム医療体制を構築する。

- クリニカルパスを活用し、効率的な医療を推進する。
- バリアフリー等、全ての入院患者にとって利用しやすい、快適に療養できる病棟施設の環境を整備する。
- 全ての入院患者にとって利用しやすいユニバーサルデザインを採用し、患者にとって快適な療養環境を整備する。
- 患者や家族に対するインフォームド・コンセントを行い、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供する。

2) 運営方針

- 一般病床は1病棟当たり46床（開院当時は38床）で3病棟を整備する。療養病床は42床（開院当時は36床）で1病棟整備する。
- 治療上必要となる個室や有償個室等を病棟内に配置し、患者の容態や希望に応じた療養環境を提供する。
- 観察室は、手術後の重症患者、病状が急変した重症の患者を対象に運用する。
- インフォームド・コンセントのための部屋を設置する。
- 入院患者や家族の利便性を高めるために、食堂兼デイルーム、ランドリーコーナー等を整備する。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
病室関連 エリア	内科病棟（46床）			
	病室(個室)	6 室	・洗面台、医療ガス、トイレ、Ns コール	・個室トイレは車イス対応
	病室(重症個室)	1 室	・洗面台、医療ガス、単独空調、個別換気、トイレ、Ns コール、医療機器配置スペース	
	病室(感染個室) ※陰圧室	1 室	・洗面台、医療ガス、トイレ、緊急Ns コール	
	前室	—		
	病室(2 床室)	1 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	・2 床室、4 床室にトイレは整備しない ・病棟内に集合型トイレを整備
	病室(2 床室) ※亜急性期病床	4 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	
	病室(4 床室)	7 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	
	外科病棟（46床）			
	病室(個室)	6 室	・洗面台、医療ガス、トイレ、Ns コール	・個室トイレは車イス対応
	病室(重症個室)	2 室	・洗面台、医療ガス、単独空調、個別換気、トイレ、Ns コール、医療機器配置スペース	
	病室(2 床室)	1 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	・2 床室、4 床室にトイレは整備しない ・病棟内に集合型トイレを整備
	病室(4 床室)	9 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	
	整形外科病棟（46床）			
	病室(個室)	6 室	・洗面台、医療ガス、トイレ、Ns コール	・個室トイレは車イス対応
	病室(重症個室)	2 室	・洗面台、医療ガス、単独空調、個別換気、トイレ、Ns コール、医療機器配置スペース	

	病室(2 床室)	1 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	・2 床室、4 床室にトイレは整備しない
	病室(4 床室)	9 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	・病棟内に集合型トイレを整備
	療養病棟 (42 床)			
	病室(個室)	4 室	・洗面台、医療ガス、トイレ、Ns コール	・個室トイレは車イス対応
	病室(2 床室)	1 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	・2 床室、4 床室にトイレは整備しない
	病室(4 床室)	9 室	・洗面台、医療ガス、Ns コール	・病棟内に集合型トイレを整備
患者関連 エリア	特別浴室	1 室	・機械浴設備、Ns コール、医療ガス	・療養病棟に設置
	ストレッチャー浴	1 室	・Ns コール、医療ガス	・内科、外科、整形病棟 ・シャンプー台(1 台)設置スペース
	シャワー室	2 室 ※内科 (1 室)	・Ns コール	・各病棟に設置 ・介助スペース
	トイレ	2 室 ※整形 (4 室)	・Ns コール	・男女別、車イス対応 ・外科病棟はオストメイト対応
	汚物処理室	1 室	・便、尿器洗浄機、蓄尿設備	・トイレに隣接 ・ポータブルトイレ保管スペース
	デイルーム 兼病棟食堂	各階 1 室	・手洗設備、Ns コール	
	ランドリールーム	各階 1 室	・全自動洗濯乾燥機	
スタッフ ステーシ ョン	スタッフステーション	1 室	・Ns コール関連設備、医療情報端末	・病棟中央に配置 ・スタッフステーション内の声が広がらない工夫
	看護師長エリア	—		
	作業準備エリア	—	・給排水設備、汚物処理設備、作業台	・点滴、注射、投薬等の作業準備スペース
	コメディカル業務エリア	—		
	患者観察室	1 室	・手洗設備、医療ガス	・2 床程度(許可病床に含まない)
	給湯エリア	—		
	スタッフルーム	1 室	・洗面台	・スタッフステーション近隣に配置
診療関連 エリア	トイレ	2 室		・男女別
	処置室	1 室	・医療情報端末、医療ガス、Ns コール	・療養病棟は不要
	ギプス室	2 室		・大小 2 室 (整形外科病棟のみ)
	面談室	1 室	・医療情報端末、TV、DVD	・車イス対応
	カンファレンス室	1 室		・10 人程度収容
その他	器材庫	1 室		・十分な広さ、棚、引き出しを豊富に ・ポータブル撮影装置を保管
	リネン室	1 室		・清潔、不潔エリア分け
	車椅子、ストレッチャー保管スペース	—		
	パントリー	各階 1 室		・下膳車保管

廊下・機械室・EV ホール(共用部分)	—		・EVは3基整備（一般用、患者搬送用、 配膳用）
・患者搬送は、原則ベッド搬送で行う。 ・重症個室、2床室はスタッフステーション近隣に配置。（亜急性期病室除く） ・个人防护具(マスク、手袋等)を保管するためのスペース(棚)を各病室付近に整備。			

03 手術部門

1) 基本方針

- 手術を必要とする患者に安心・安全な医療を提供するため、医師、看護師、コメディカルスタッフが連携して、チームとして医療に取り組む。
- 感染対策のため、清潔ゾーンと不潔ゾーンを分離し、清潔管理を徹底する。
- 患者・家族に対するインフォームド・コンセントを充実させ、十分な説明により患者の不安を和らげる。

2) 運営方針

- 手術室は3室（バイオクリーンルーム1室を含む）とし、管理責任者のもとで効率的に運用する。
- 医師は手術に際し、十分なインフォームド・コンセントを行うとともに、患者の不安を和らげる。
- 入院患者の手術後の回復室として、各病棟の重症個室・観察室を利用する。
- 手術部門に隣接して家族控室を設置する。
- 手術・処置等で使用する器材・材料を効率的に提供するため、洗浄・消毒・滅菌等を行う中央材料部門を手術室に隣接して設置する。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
手術室周 辺エリア	患者搬送替えホール	—		
	面談室	1室	・医療情報端末	・手術室エリアからも入室
	家族控室	2室	・洗面台	・個室（付添い家族宿泊室を兼用）
	更衣室	1室		・日帰り手術用
スタッフ エリア	スタッフステーション	1室	・モニタリング設備、医療情報端末	
	更衣室	2室	・洗面台	・男女別 ・スタッフルームを兼ねる
	トイレ	2室		・男女別
	医師控室(麻酔医)	1室	・洗面台	
手術室 エリア	手術室	2室	・単独空調、手術台、无影灯、保温庫、 保冷库、冷凍庫、医療ガス	
	バイオクリーン ルーム（BCR）	1室	・単独空調、手術台、无影灯、保温庫、 保冷库、冷凍庫、医療ガス	
	前室	—		
	器材展開室	1室		・1日5～6件の手術器材展開
	器材庫	1室		・外科用イメージ(2台)が保管出来る広さ
	標本作製エリア	—	・作業台、流し台	・標本保管不要(作成のみ)
中央材料 エリア	洗浄室	1室	・ウォッシャーディスインフエクター、 作業台、流し台、汚物処理設備、 内視鏡洗浄機	・洗浄及び滅菌は中央化 ・手術室と隣接
	組立・滅菌室	1室	・高圧蒸気滅菌装置、EOG滅菌装置、プラズ マ滅菌装置、パックスレー、作業台	・手術室と隣接

	既滅菌器材保管庫	1 室	・パスボックス	
・手術部門への出入りは、一足制ではなく履き替えにより運用する。 ・内視鏡室からの内視鏡搬送動線の確保。(手術で内視鏡を使用。) ・清潔、不潔動線を分離する。				

04 薬剤部門

1) 基本方針

- 医薬品の適正使用を推進し、効果的で安全・安心な医療の提供に貢献する。
- 各部門スタッフで構成するチーム医療を行う一員として、病棟活動に積極的に参加する。

2) 運営方針

- 外来患者に対する調剤は原則院外処方とし、薬剤に関する相談室を設置する。
- 服薬指導業務をはじめとする病棟業務の充実を図るため、病棟に薬剤師専用の業務スペースを確保する。
- 抗がん剤等のミキシングは薬剤部内で行い、病棟、外来に搬送する。
- 薬剤管理システムを活用し、安全性が高く効率的な調剤業務を行う。
- 医薬品の購入管理、在庫管理、供給管理、消費管理及び物品管理を行うシステムを整備する。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
調剤 エリア	調剤室	1 室	・医療情報端末、散薬調剤台、錠剤台、外用台、水薬調剤台、冷蔵庫、給排水設備	
注射払出 エリア	注射払出室	1 室	・医療情報端末、注射台、輸液台、冷蔵庫	
	カート置場	1 室		
ミキシン グエリア	ミキシングルーム	1 室	・医療情報端末、安全キャビネット、個別換気	・化学療法室との動線
DI エリア	医薬品情報管理室	1 室	・医療情報端末	・薬局員室、薬務室との効率的な動線
	お薬相談室	1 室		
その他	薬務室	1 室	・統一購入システム	
	スタッフルーム	1 室	・洗面台	
	医薬品倉庫	1 室		

05 臨床検査部門

1) 基本方針

- 臨床検査技師の専門性が求められる機能（生理検査等）の充実を図り、検体検査については公立豊岡病院等との機能分担を行う。
- 医療情報システムとの連動により、検査依頼・予約等のオーダ取込み及び検体容器準備等の自動化を図り、迅速に検査が実施できる体制を確立する。
- 患者確認、血液型確認、製剤確認のシステム化を図り、迅速かつ確実に結果報告ができる体制を確立する。

2) 運営方針

- 検体検査、生理検査、緊急検査、輸血検査機能を持ち、正確で効率的に検査を行うために、医療情報システムと連動した検査システムを活用する。
- 生理検査部門は入院・外来患者等の動線に配慮した配置とする。また、検査科内においては、各検査間で機能的な動線を確保する。
- 血液検査、生化学検査等については自動検査システムを導入し、迅速かつ効率的な検査業務を実施する。
- 輸血管理として、輸血用血液の購入、保管、供給、消費の一元管理を行う。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
検体検査 エリア	検体検査室	1 室	・流し台、汚物処理設備、単独空調、冷蔵庫、冷凍庫、個別換気、医療情報端末、給排水設備	・採血、採尿室と隣接 ・床はフリーアクセス方式
	輸血製剤管理 エリア	—	・医療情報端末、輸血製剤専用冷蔵庫	・専用入り口
生理検査 エリア	心電図室 兼エコー室	1 室	・医療情報端末、ベッド(2 台)	・ベッドはカーテン(パーテーション)で区分 ・調光可能な設備、防音 ・病棟ベッドのまま検査が出来るスペース
	運動負荷室	1 室	・医療情報端末	・神経伝導速度検査を同室実施
	呼吸機能検査室	1 室		・眼底検査、聴力検査を同室実施
その他	スタッフルーム	1 室	・洗面台	
	物品倉庫	1 室		
・中央採血エリアに隣接する。 ・生理検査エリアは、職員動線と患者動線を分ける。 ・検査部門内の効率的な動線に配慮する。				

06 放射線部門

1) 基本方針

- 専門医療にも対応できる放射線診断機能確立する。
- 画像情報システムを用いて、画像データをデジタル保存し、端末画面により画像参照や画像診断が行えるシステムを整備する。

2) 運営方針

- 放射線部門には、一般撮影装置、乳房撮影装置、MRI、マルチスライス CT、X 線 TV 装置等を整備するとともに、救急処置室や手術室にも端末等を整備する。
- 放射線部門は、入院・外来患者の両方の動線に配慮した配置とする。
- 画像情報システムを活用し、画像データ管理をシステム化する。
- 読影は必要に応じて委託を行う。
- 読影レポートは端末画面で参照できるシステムとする。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
一般撮影 エリア	一般撮影室	2 室	・医療情報端末、操作室、医療ガス	
	更衣室	2 室		

	乳房撮影室 兼骨塩定量測定室	1 室	・医療情報端末、操作室、医療ガス	
	更衣室	1 室		
	X線TV室	1 室	・医療情報端末、操作室、医療ガス、 手洗設備	・内視鏡室との動線に配慮
	トイレ	1 室		
	更衣室	1 室		
CT 撮影 エリア	CT 撮影室	1 室	・医療情報端末、操作室、医療ガス、 手洗設備	
	更衣室	1 室		
MRI 撮影 エリア	MRI 撮影室	1 室	・医療情報端末、操作室、医療ガス、 手洗設備	
	前室	—		
	更衣室	1 室		
その他	読影室（兼診察室）	1 室	・医療情報端末、高精細モニター、調 光機能	
	スタッフルーム	1 室	・洗面台	
・スタッフの業務効率を考慮した機器配置及び動線に配慮する。 ・フィルムレスで運用し、サーバーは院内一括管理する。 ・救急外来、一般外来からの動線、手術部門からの動線に配慮する。 ・必要箇所に物品保管用ラックの設置（施錠可能なもの）。				

07 リハビリテーション部門

1) 基本方針

- 患者の自己決定権を尊重し、患者主体のリハビリテーションを推進する。
- 地域との連携を深め、地域住民から信頼されるとともに住民ニーズに応じたリハビリテーションを提供する。
- 患者の立場に立った安心・安全なリハビリテーションを実施する。

2) 運営方針

- 患者の家庭・社会への復帰をリハビリテーションの目的とし、生活機能の回復に必要な運動療法や生活の質を重視した日常生活練習を実施する。
- 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー等による総合的なチームを組み、患者を交えた治療方針の相談・決定や情報共有に基づいてリハビリテーションを提供する。
- 入院患者への効果的なリハビリテーションを実施するため、リハビリテーション部門と整形外科病棟、療養病棟の配置にあたっては、患者動線に十分配慮する。
- 患者が安心して在宅生活を送れるように、地域スタッフとの会議・情報提供等を積極的に推進する。
- 理学療法室・作業療法室・カンファレンスルーム等を整備するとともに、屋外活動・公共交通機関利用を想定した練習設備を設置する。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
理学療法 エリア	理学療法室	1 室	・手洗設備、医療ガス、施設基準に定められた機器	・室内に柱の無い構造 ・転倒に配慮した床

	水治療法室	1 室	・タイル張り、排水機能、シャワー、天井換気扇	
作業療法 エリア	作業療法室	1 室	・施設基準に定められた機器	・室内に柱のない構造 ・転倒に配慮した床
	日常生活動作 練習室	1 室	・台所機能、日常生活訓練施設（浴室、トイレ等）、個別換気	・調理訓練時の匂いが他エリアに広がらないよう配慮
その他	記録室	1 室	・医療情報端末	・カンファレンスルーム兼用
	受付エリア	—	・医療情報端末	
	診察室	1 室	・医療情報端末	
	倉庫	1 室	・棚(固定式)、個別換気	
	スタッフルーム	1 室	・洗面台	
	トイレ	2 室		・男女別、車イス対応 ・部門内ではなく周辺に整備
	屋外練習場	—	・アンツーカーの歩道	・隣接の必要なし
・整形外科病棟と療養病棟と同一フロアに整備する。 ・患者の自主訓練用のスロープを設置する。				

08 栄養管理部門

1) 基本方針

- HACCP の概念に基づき、安心、安全な食事提供を行う。
- 個々の患者の病態に合った食事提供と栄養管理を行い、疾病治癒に貢献する。
- 入院中の患者が食事を楽しめるよう、心をこめて食事提供を行う。
- チーム医療を担う一員として、患者の栄養管理の面から治療に貢献する。

2) 運営方針

- 食事の提供にあたっては、医療スタッフとの連携を深め、患者に最適な栄養管理を行う。
- 食事の提供は中央配膳方式とし、温冷配膳車により温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供する。
- 厨房と各病棟との導線に留意し、衛生的な食事を提供する。
- 一般食、特別食等様々な食種に対応すると共に、咀嚼・嚥下困難な患者に対応した食事提供に取り組む。
- 患者やその家族に対して、栄養指導を行う他、栄養教室を実施する。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
栄養管理 エリア	事務室	1 室	・医療情報端末、洗面台	・応接エリアを整備（休憩エリア兼用）
	物品保管エリア	—		・保管ラック（主に書類の保管）
	栄養指導室	1 室	・医療情報端末	・病棟からの動線（病衣移動を考慮） ・車イス対応
厨房 エリア	食品庫	1 室	・単独空調(24h 365 日稼働)、米サイロ、飲物冷蔵庫、特殊食品置場	・検収コーナー、下処理室、調理コーナーに面している事
	物品倉庫	1 室		
	冷蔵庫	1 室	・カートインタイプ	
	冷凍庫	1 室	・カートインタイプ	
	下処理室	1 室	・下処理台(2 台)、製氷機	・ゴミ捨て場への動線
	食器洗浄室	1 室		・清潔区域と分ける

	検収コーナー	1 室	・検収台(2 台)	
	調理室	1 室		
	炊飯コーナー	—	・ライスロボ、軟飯用・粥用炊飯器	
	調理コーナー	—	・各種調理機器	・ゴミ捨て場への動線
	盛り付けコーナー	—		
	調理室入室前 エリア	—	・手洗設備	
	配膳車プール	1 室	・配膳車用電源	
	配膳車専用 EV	1 台		・配膳車プールと病棟パントリーに直結
その他	更衣室・休憩室	2 室	・洗面台	・男女別
	トイレ	2 室		・男女別(女性用に白衣の脱衣スペース)
・中央配膳方式とする。 ・厨房エリア床面は、ドライシステムとする。 ・厨房エリアは室温 25℃以下、湿度 80%以下に保つ。(厨房エリアは室温上昇防止等のため、窓は不要。) ・熱源は、電気・ガス・蒸気。				

09 医事部門

1) 基本方針

- 電子カルテを中心とする医療情報システムを有効に活用して、患者にとって分りやすい受付・会計を構築し、待ち時間の短縮等、患者サービスを向上する。
- 診療報酬に関する情報を各部門に提供し、診療報酬漏れ等の削減に取り組む。
- 医療情報システム(医事会計システム等)から得られる各種データを経営管理情報として活用し、経営の健全化に貢献する。

2) 運営方針

- 予約制等を導入し、診察待ち、検査待ち、会計待ち等における順番表示や患者の案内誘導を行う。
- 医事会計システムを整備し、診療に関する情報を取り込み、正確で迅速な計算・会計処理を行う。
- 医事会計部門は、患者にとって最も利便性の高い場所に配置する。
- 患者の待ち時間を最小限にとどめるため、十分な数の会計窓口や医事会計端末を整備する。
- 個人情報保護の観点からセキュリティには十分配慮する。
- 初診患者等からの相談に対応するための総合案内を設置するとともに、相談室を設置し、患者・家族からの病気や治療に対する相談を行う。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
医事 エリア	総合案内	-		・車イス対応
	記載台コーナー	—		・車イス対応
	総合受付	—	・医療情報端末、再来受付機(2 台)、 自動精算機	・受付(初診、紹介、保険確認、文書)、会計 ・車イス対応
	入退院受付エリア	—		・入院前説明に使用
	事務室	1 室	・医療情報端末、インターネット環境(保険 請求電送、財務会計)、作業台	・入院、外来事務
	物品保管エリア	—		・保管ラック
	カルテ庫	1 室	・医療情報端末	・フィルム保管スペース
	レセプト審査室	1 室	・医療情報端末	
	医療相談室	2 室		・各種相談対応

10 地域連携部門

1) 基本方針

- 診療所医師からのスムーズな紹介患者の受け入れ、及び退院後の適切な逆紹介を行うための病診連携に取り組む。
- 専門的な治療が必要な患者を、高度専門医療を実施している医療機関（病院）への紹介や、高度専門治療を終えた患者の受け入れを円滑に行うための病病連携に取り組む。
- 朝来市域の在宅医療の充実のため、訪問診療を中心とした在宅医療を行うとともに、地域の診療所医師、朝来市福祉部門、ケアマネージャー等との連携に取り組む。

2) 運営方針

- 地域連携室（仮称）の機能を設置し、診療所医師からの円滑な紹介を受けるとともに、逆紹介を行う。また、当院で実施できない検査や治療が必要な場合には、基幹病院への紹介を行う。
- 医師が定期的、計画的に在宅患者の病状管理を行う訪問診療を中心に、訪問看護等と合わせて在宅医療を行う。
- 医療ソーシャルワーカーを配置し、かかりつけ医をはじめとする地域の診療所医師、地域包括支援センターを中心とする朝来市の福祉部門、ケアマネージャー等との連携により、高齢者の在宅支援等を行う。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
地域連携 エリア	地域連携室	1 室	・医療情報端末	・紹介、逆紹介の管理 ・予約管理(検査等) ・地域連携医事務エリア含む
	相談室	1 室		・ミーティングスペース
・医事エリアに隣接				

11 事務管理部門

1) 基本方針

- 病院運営の中核機能として、医師の診療援助や各部門のマネジメント等を行い、質が高く効率的な医療の提供を支援する。
- 経費の効率的執行、材料費の適正執行に留意し、経営の健全化に努める。
- 安心、安全を推進し、患者が安心して利用できる病院環境の維持に努め、患者サービスの向上に貢献する。
- 医療従事者に選ばれる病院づくりに努力し、人材の確保・育成に努める。

2) 運営方針

- 院内各部門の連絡調整、院内各種委員会の統括、院外関係機関との連絡調整、病院の庶務、共用諸室・設備の管理、文書の管理等を行う。
- 施設管理として、院内全域、エネルギーセンター等の保守点検、セキュリティ管理、長期修繕計画の立案等を行う。
- ランニングコスト低減化の意識を常に保ちつつ、長期修繕計画の立案・実施等も含めた適正な維持管理を行う。
- 院長室、医局、事務長室、総看護師長室等を含め、事務室、会議室、施設管理室等を整備する。
- 医局、更衣室等、常勤医師や非常勤医師等が診療業務を円滑に行うことができる環境を整備する。
- 全職員が使用できる図書室を設置する。

3) エリア別諸室リスト

エリア名	諸室名	諸室数	設備	備考
管理 エリア	院長室	1 室	・医療情報端末	・応接スペース
	副院長室	1 室	・医療情報端末	・応接スペース
	総看護師長室	1 室	・医療情報端末	・ミーティングスペース
事務部門 エリア	事務室	1 室	・医療情報端末	・事務長エリア含む
	応接室	1 室	・応接セット	・事務長エリアと隣接 ・内外の入口 2 ヶ所
	サーバー室	1 室	・単独空調、免震構造	・院内サーバーの集約化
医局 エリア	医局	1 室	・医療情報端末、洗面台	・研修医、出張診療医師用スペース ・応接スペース、休憩スペース
	医局更衣室	2 室		・男女別
その他	図書室	1 室	・インターネット環境、医療情報端末	・ミーティングスペース ・医局近隣に整備
	病歴事務エリア	—	・医療情報端末	・閲覧スペース
	会議室	2 室	・医療ガス(大会議室のみ)	・大 1 (80 名、2 室に区切れること)、小 1 (20 名)
	研修室	1 室		・更衣スペース(看護学生控室を兼用)
	当直室	7 室		・医師(2)、看護師、薬剤、放科、検査、救急隊員実習
	事務当直室	1 室		・集合当直室とは別場所に整備 ・警備、電話交換業務を兼務
	当直用トイレ	2 室		・男女別
	シャワー室	1 室		・当直室に隣接
	更衣室・休憩室	2 室	・洗面台	・男女別
	ボランティア室	1 室	・洗面台	・休憩室兼更衣室
	職員食堂	1 室	・洗面台、検食保管庫	
	倉庫	2 室	・物品棚	・物品庫(災害備蓄含む)、書庫
	機関員作業室	1 室		・簡易修理作業に使用
	機械室	—		
	リネン庫	1 室		・清潔、不潔エリア分離
	感染性廃棄物倉庫	1 室		
	一般廃棄物庫	2 室		・可燃と不燃、資源等
	洗濯室	1 室	・業務用洗濯機、乾燥機、大型洗濯機、大型作業台	・白衣、シーツ洗濯委託用回収、納品エリア含む
患者 サービス	売店	—		・患者が利用しやすい場所に整備 ・イートインスペース
	ATM	—		
	公衆電話	1 室		・外来に 1 室(車イス対応)
・ 公用車車庫を院外に整備(倉庫を併設。インアクティブカルテを収納。) ・ 医師(研修医)住宅の整備				